[下総国分寺跡（市川市）]探訪レポート

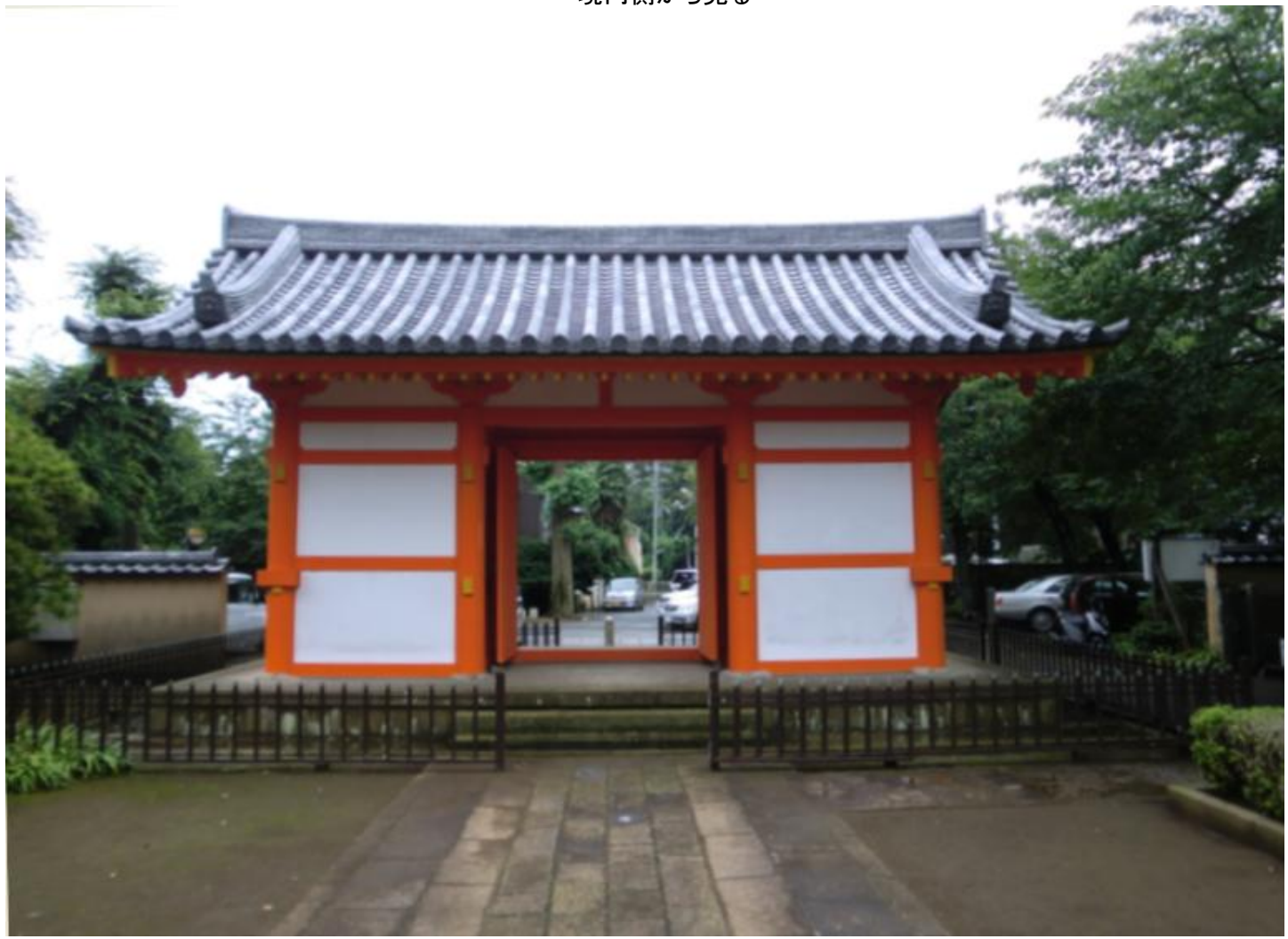
非常に分かりにくい所にある

仁王門（旧南大門）が見える

天平様式で再建された、現下総国分寺南大門で、大きさは創建当時の四分の一、位置は現本堂に合わせるためか少し東にずれているという（説明板参照）

下総国分寺
83-8

境内側から見る



國分山國分寺南大門

國分寺は天平十三年(七四一)の詔勅に「僧寺は寺名を金光明四天王護國之寺と為す」とあり、中古より明治二十二年寺名改称迄当寺は國分山金光明寺と称し、現在は國分山國分寺と呼称す。

当山の南大門は天平創建当初は、現在位置より凡そ南方約二十米西方約七米の位置に建立されたものと推定される。(法隆寺式の伽藍配置のため)幾度かの火災に依り或る時代に現在の位置に移建されたものである。明治焼失の山門は室暦年間勝快法印代に建立されたもので、江戸名所図会や古老の言に依ると楼門造の立派な山門であったことが判る。

此の門は明治二十四年十一月の火難に焼失し、この時山門内に安置された仁王尊の阿形像は火中より救出され、吽形像は焼失す。

昭和四十九年大佛師法橋松久朋琳氏に依り阿形像は復元、補修、吽形像は復元造像されたので、これを安置するため山門焼失後八十七年目に今回檀徒一同の浄財に依って國分山國分寺南大門として再建されたものである。

建築様式　天平時代　三間一戸八脚門
組物平三斗　中備間斗束　妻二重虹梁蟇股
二軒繁垂木　切妻造本瓦葺
鐙瓦宇瓦文様当境内出土天平瓦文様復元
鬼瓦文朝鮮慶州出土新羅系鬼面文復元

設計並施工指導　渡部寅太郎氏
工事請負　株式会社　翠雲堂

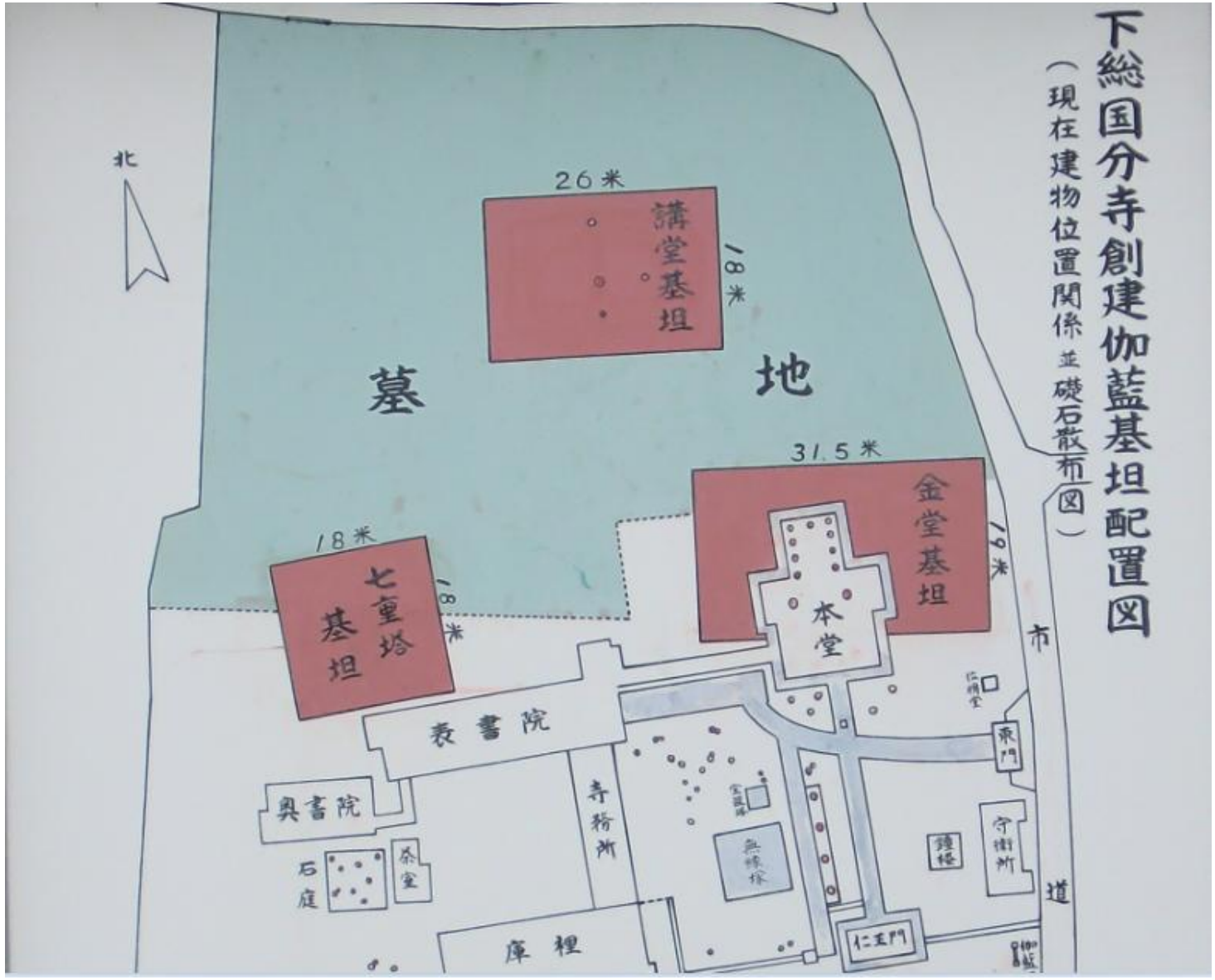
昭和五三年七月

國分山國分寺

下総国分寺創建伽藍基壇配置図
（現在建物位置関係と現況写真）
墓
地
境
内
地
講堂基壇
金堂基壇
七重塔基壇
本堂
教書院
庫裏
鐘楼
金堂
講堂
中門
回廊
北

下総国分寺創建伽藍基坦配置図

（現在建物位置関係並礎石散布図）



現本堂が見える

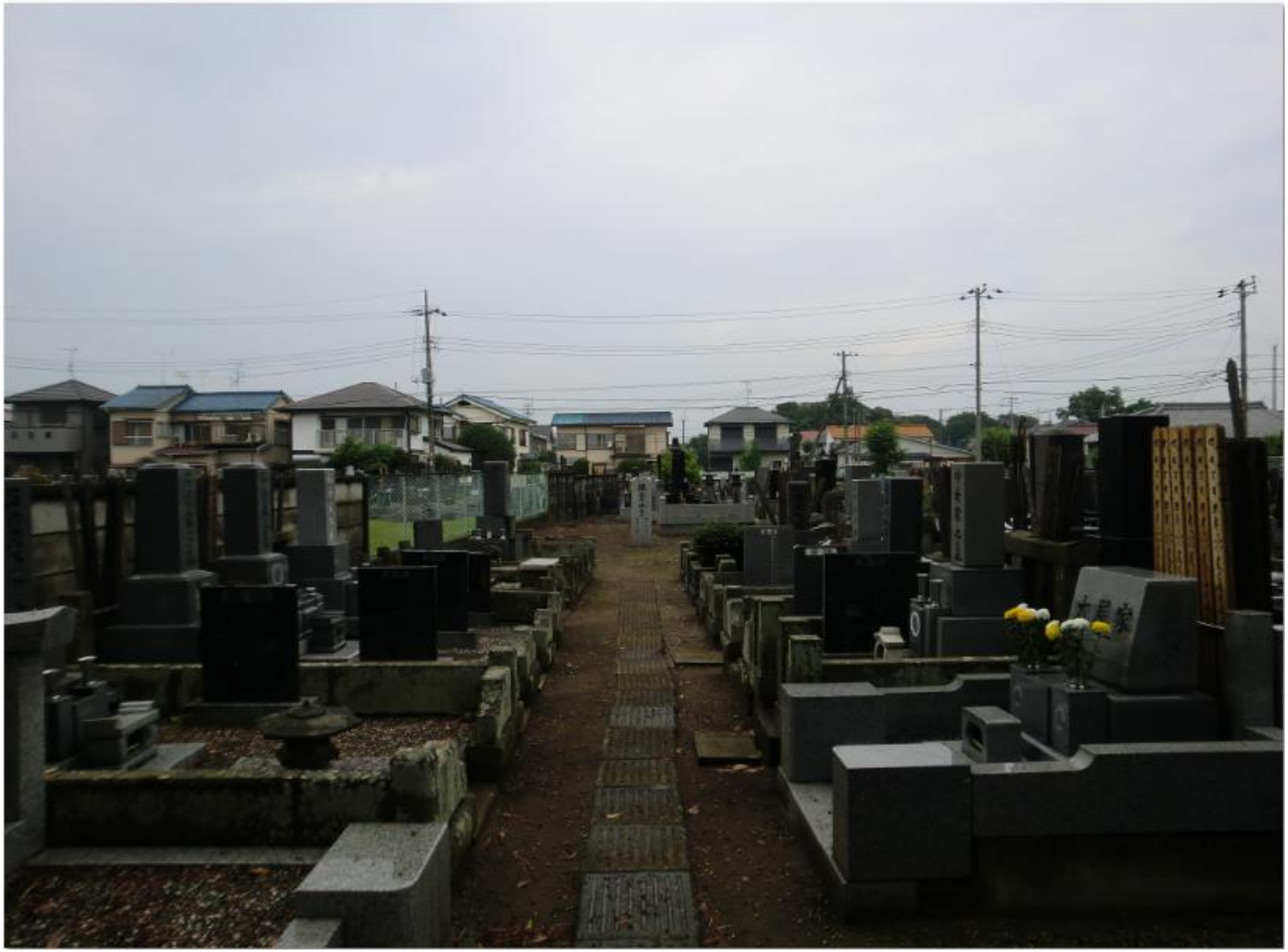
この現本堂の場所が金堂基壇に重なる

右側面から見る

左側面から見る

鐘楼

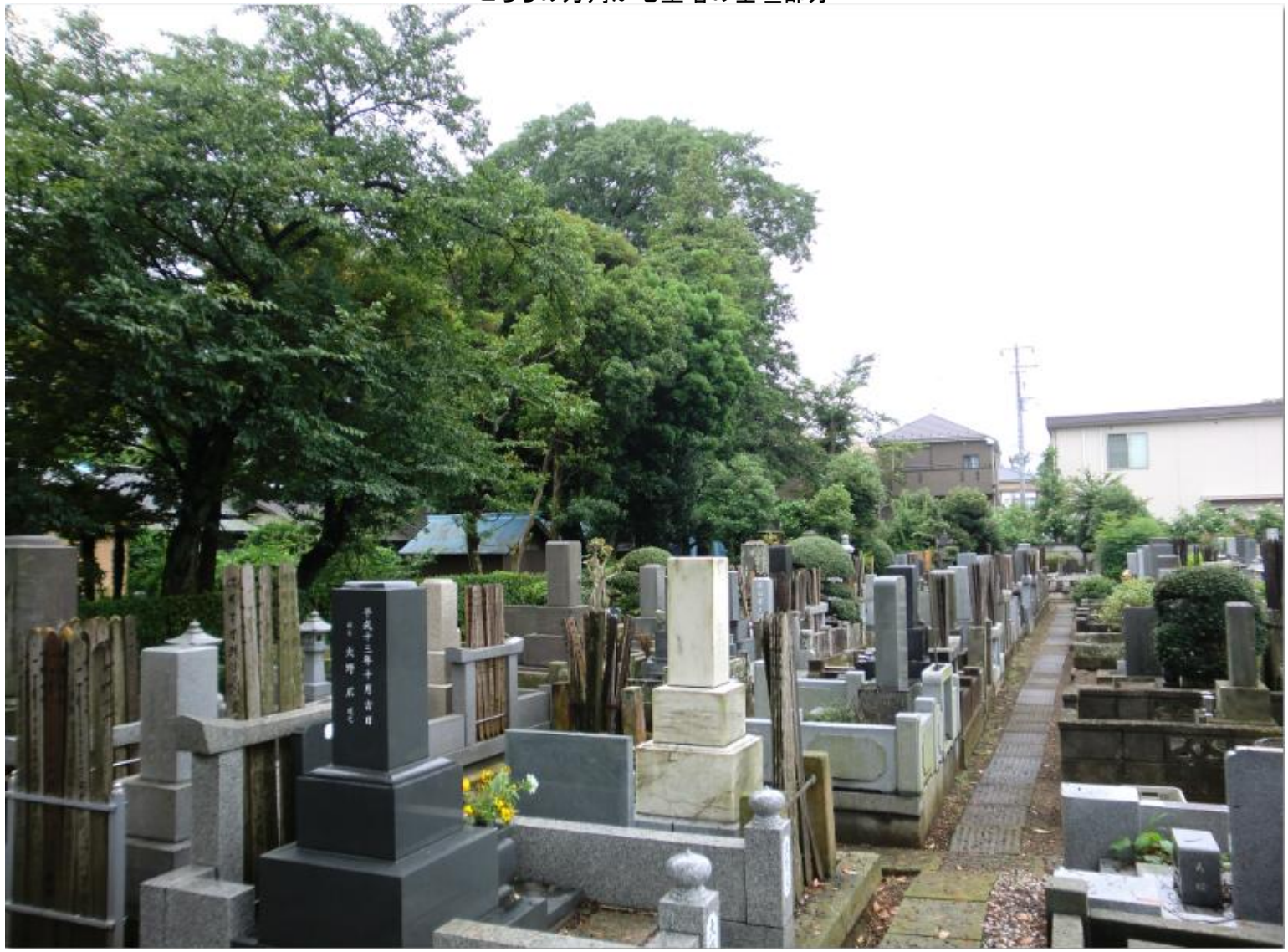
裏手の墓地に回ってみる（前方に標石がある）



ここの辺りが講堂基壇部分

前方の現本堂の場所が金堂基壇部分

こちらの方角が七重塔の基壇部分



インターネットより

燈篭

燈篭

宝篋印塔があった

これは最近の宝篋印塔だが、なかなか立派

千鳥破風付き

こんなのも

七重石塔

層塔

大きな軒反り

創建伽藍に使われた礎石か？

東門

参考ホームページ

http://orange.zero.jp/kkubota.bird/shimoosa.htm

http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Sumire/8209/mania2.htm

http://www.st.rim.or.jp/~komatsu/simousa.html

じゅん菜池緑地
里見公園
国分尼寺跡公園
下総国分寺
芳澤ガーデンギャラリー
真間山弘法寺
郭沫若記念館
弘和田公園
木内ギャラリー
真間の継橋
手児奈霊神堂
いちかわ文学の道
市川駅
江戸川駅
国府台駅
本八幡駅

老人スポーツ広場
国分尼寺跡公園
庚申神社
笠園寺
日枝神社
下総国分寺瓦窯跡
下総国分寺跡
下総国分寺
宝珠院
経王寺
稲荷大明神
芳澤ガーデンギャラリー
四季折々の庭園美が感じられるギャラリー。
石橋下公園
国分児童遊園地
郭沫若記念館
434